



▲平成10年の浸水状況 (土佐山田町神母ノ木)
 (『98高知水害の記録 豪雨パニック』より引用)

背景

平成10年(1998)9月23日秋雨前線により降り出した雨は、四国地方の各地に1,000mmにも達する雨量をもたらしました。高知市では24日6時からの日雨量が943mmにも達し、市内各地で家屋の浸水が発生しました。この時、香美市土佐山田町では片地川の堤防が決壊し、近くに住む体の不自由な高齢女性が溺死するという痛ましい出来事が起こりました。

アクセス

山田堰跡 (物部川)

- JR土佐山田駅より東北東へ直線距離約3km
- 香美市土佐山田町
- 緯度経度 北緯33度36分44秒, 東経133度42分48秒



平成一〇年(一九九八)の高知水害では、時間雨量が百ミリを超えるような豪雨が降りました。老夫婦は二人暮らしでした。妻は五年半前、脳梗塞で倒れてからは体が不自由で、人に支えてもらって立つのがやっとでした。そこに突然の豪雨により、片地川の堤防が決壊し、濁流が一带の民家に流れ込みました。一階のベッドで寝ていた夫が浸水に気付いたのは午前二時頃でした。ベッドから下りてみると水がすねの辺りをぬらしていました。

「これはいかん」隣で寝ていた妻を立ち上げさせました。二人は二階を目指しました。その間も水は容赦なく押し寄せ、夫の首まで達しました。もう、前に進むことはできませんでした。

妻の頭が水につからないように夫は抱えました。「冷やい、冷やい」と繰り返す妻の足を、浮いた畳の上へ上げてやりたいと思いましたが、頭を支えるだけで精いっぱいでした。

「もう限界じゃきね」「お別れぞね」妻は夫の腕の中で息を引き取りました。夫は妻の体の重みをその手で受け止めました。それからどのくらいの間がたったことでしょうか。空が明るくなった午前六時半過ぎ、夫は救助されました。

